

平成 30 年 4 月 27 日

各 位

会 社 名 フューチャー株式会社  
 代表者名 代表取締役会長兼社長 金丸 恭文  
 (コード番号 4722 東証第一部 )  
 問合せ先 執行役員 中島 由彦  
 (TEL (03) 5740 - 5724 )

## 平成 30 年 12 月期第 1 四半期連結業績のお知らせ

### 1. 平成 30 年 12 月期第 1 四半期連結業績について

当社グループの当第 1 四半期（平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）の連結業績は、

売 上 高	9,218百万円	(前年同期比 5.8%増)
営 業 利 益	1,364百万円	(前年同期比 42.0%増)
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,374百万円	(前年同期比 124.2%増)

となりました。各セグメントの業績については以下のとおりです。

#### (1) ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト株式会社及びフューチャーインスペース株式会社は、昨年中から新規に開始したアパレル、流通小売業、食品製造業、メディア等のプロジェクトの売上が拡大したほか、新たな地方銀行の営業支援・融資支援システムのプロジェクトを開始しました。特にAI技術を活用した伝票の読取、需要予測及び融資審査といったプロジェクトが増加していることもあり、売上高と営業利益は前年同期比で増加しました。

株式会社ワイ・ディ・シーは、品質情報統合解析ソフトウェア「YDC SONAR」のライセンス売上が好調であったほか、製造業向けのシステム開発の受託や流通業向けの物流総合システムの売上が伸びたことで、売上高・営業利益とも増加し、特に営業利益は前年同期比で130%を超える増加となりました。

Future One株式会社は、中堅企業へのオリジナルの販売管理パッケージソフトウェアの販売が引き続き好調であり、売上高・営業利益とも前年同期比で改善しました。

株式会社マイクロ・シー・エー・デーは、独自の知的財産管理ソフトウェアの売上や製造業向けシステム開発が好調であったことから、売上高が増加し、営業利益は前年同期の赤字から黒字となり、大幅な改善となりました。

この結果、本セグメントの売上高は 7,752 百万円（前年同期比 3.6%増）、営業利益は 1,437 百万円（前年同期比 36.0%増）となり、売上高及び営業利益が大きく増加しました。

## (2) ビジネスイノベーション事業

東京カレンダー株式会社は、コンテンツを30代から40代のライフスタイルストーリーにフォーカスした戦略により、平成30年3月末のPV（動画再生数含む）が、昨年末の4,700万から5,200万に増加し、雑誌の販売数も平成30年1月には過去最高となりましたが、広告の売上増への貢献が遅れ、前年同期比で営業損失が拡大しました。一方、マッチアラム株式会社は東京カレンダー株式会社と連携することで継続的にユーザーを増やし、売上・利益とも好調に推移しました。

コードキャンプ株式会社は、オンラインでのプログラミング講座や法人向けのプログラミング研修及びエンジニア教育と連動した転職紹介プログラムの売上が引き続き増加したことにより、前年同期比で売上高が大幅に増加しました。営業利益は若干の赤字となったものの、前年同期比では大幅に改善しました。

株式会社eSPORTSは、プライベートブランドのアウトドアやトレーニング用品の販売を中心に売上高は前年同期比で増加しましたが、販売促進のため手数料が増加し、営業利益が減少しました。

ライブリッツ株式会社は、複数のプロ野球球団からチーム強化のシステムやECを含むファンクラブ向けのシステムを受注したことで開発の売上が順調に増加しました。

この結果、本セグメントの売上高は1,509百万円（前年同期比17.4%増）、営業損失は85百万円（前年同期は108百万円の損失）となり、前年同期比で売上高が増加し、営業赤字は減少しました。

## (3) 特別利益・特別損失の計上について

平成30年4月13日に公表いたしました「勝訴の確定に関するお知らせ」のとおり、日東電工株式会社との訴訟につきまして、平成30年3月28日に東京高等裁判所により言い渡された当社側勝訴の控訴審判決が確定したことから、当第1四半期において、訴訟関連収入809百万円を特別利益に、訴訟関連費用130百万円を特別損失に計上しました。

(1) (2) (3)により、当第1四半期の親会社に帰属する四半期純利益は1,374百万円となり、前年同期比124.2%増となりました。

(注) 上記のセグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高または振替高を調整前の金額で記載しております。

## 2. 今後について

### (1) ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト株式会社においては、第2四半期以降は、昨年から今年にかけて新たに獲得したプロジェクトの売上が増加していく見通しであります。最先端技術に特化したチームであるテクノロジーイノベーショングループを持株会社のフューチャー株式会社において再編成し、フューチャーアーキテクト株式会社とフューチャー株式会社間での役割分担とシナジー効果の拡大を図ることで、顧客に対するAIやIoTを利用した提案の強化を推進します。

また、当社グループ独自のAIに関する教育プログラムにより、機械学習・深層学習などのAI技術を実際のビジネスに利活用できる人材の育成を強化していきます。

株式会社ワイ・ディ・シーにおいては、フューチャーグループのコンポーネントを活用することで開発の効率を向上させることや株式会社ワイ・ディ・シー独自の物流ソリューションをフューチャーアーキテクト株式会社の顧客に提供することなどが具体的に動き出しており、フューチャーグループ内のシナジーにより、業容の拡大を図ってまいります。

Future One株式会社は、販売パートナー会社との連携拡大や中堅企業に対する業務改革コンサルティングに注力することにより、オリジナルのパッケージソフトウェアの中堅企業からの受注の拡大を推進します。

### (2) ビジネスイノベーション事業

東京カレンダー株式会社は、30代から40代の都会の男女という特定の顧客層を強く意識しながら、月刊誌、ウェブ、イベントといった複数のメディア力を活かして、広告収入の増加を図っていきます。また、レストラン予約に関するコンテンツやサービスの強化やコンテンツ単位の課金の増加などサービスラインナップの充実を図るとともに、広告以外の収入の増加も図ってまいります。また、平成30年4月1日付で、マッチアラーム株式会社との合併を行っておりますが、これにより、オンラインでの婚活情報を提供するサービスを東京カレンダーのコンテンツサービスと完全に一体化して提供してまいります。

コードキャンプ株式会社は、オンライン・オフラインのプログラミング研修の導入企業の拡大やプログラミング教育と連動した転職先紹介の利用者の拡大に注力するとともに、子供向けのプログラミング教育についても直営以外にフライチャイズ校も増加させていくことで、通期の営業黒字化を目標としてまいります。

株式会社eSPORTSは、季節や天候に左右されにくいカジュアルスポーツ商品やユニークなPB商品の品揃えの充実を図ります。また、フューチャーグループのテクノロジーを活用して、価格や売れ筋の調査・分析の充実やカスタマー対応の進化を図るとともに、東京

カレンダー株式会社との連携等により、顧客ロイヤリティ向上を図り、自社ECサイトでの売上の増大を目指してまいります。

以上

●本件に関するお問い合わせ先：

フューチャー株式会社 IR担当 中島

IR直通 Tel：03-5740-5724 電子メール：[ir@future.co.jp](mailto:ir@future.co.jp)